

一周忌鷹羽狩行展

年迎ふ山河それぞれ位置に就き

紅梅や枝枝は空奪ひあひ

落椿われならば急流へ落つ

摩天楼より新緑がパセリほど

船よりも白き航跡夏はじまる

葛の花むかしの恋は山河越え

昼は日を夜は月をあげ大花野

流星の使ひきれざる空の丈

人の世に花を絶やさず返り花

一対か一対一か枯野人

しづけさに加はる跳ねてゐし炭も



令和7年4月25日(金)～7月30日(水)

開館時間10時～16時、第2金曜日は10時～19時30分、土日祝は10時～17時

休館日は毎週木曜日 入館無料

〒169-8521 東京都新宿区百人町3-28-10

俳句文学館 公益 俳人協会
社団法人

03-3367-6621 (代) <https://www.haijinkyokai.jp>

芦茂るところ中洲のあるところ
落鮎や流るる雲に堰はなく

伊豆は日のしたたるところ花蜜柑

日のあたる色となりゆく山ざくら

深吉野の闇かさわけて螢狩

夜はさらに青葉いきれの甲斐泊り

湯の量の豊かなるゆゑ返り花

海からの風山からの風薫る

早瀬ゆく鶉篝のいま獅子頭

あぢさゐの毬のはらからうからかな

国ぢゆうを照らす高みへ伊勢の月

人界へ流れて高野山の星

(第一句碑から第十二句碑の俳句)

一周忌鷹羽狩行展

「一周忌鷹羽狩行展」を開催いたします。

鷹羽狩行先生は、昭和五年（一九三〇）十月五日山形県生に生まれました。

平成五年（一九九三）俳人協会理事長就任

平成十四年（二〇〇二）俳人協会第七代会長就任

平成二十九年（二〇一七）俳人協会名誉会長就任

令和六年（二〇二四）五月二十七日、九十三歳で生涯を閉じられました。

句集十八冊、自註句集、俳句集成の他エッセイなど多くの著作を遺されました。一周忌に際し、鷹羽狩行先生の業績を偲び、掛軸・色紙・短冊・愛用品等を展示いたします。

平成十七年（2005）

平成二十三年（2011）

【ギャラリートーク】

テーマ「鷹羽狩行を語る」 講師 片山由美子氏

日時 令和7年6月6日（金） 13時～14時30分

場所 俳句文学館地下ホール

参加費 1000円 定員 60人

申込 令和7年4月25日（金）10時より電話にて受付

Tel 03-3367-6621



アクセス

JR中央・総武線大久保駅(北口)下車 徒歩5分

JR山手線新大久保駅下車 徒歩10分

〒169-8521 東京都新宿区百人町3-28-10

俳句文学館 公益 俳人協会
社団法人

03-3367-6621 (代) <https://www.haijinkyokai.jp>